



**市** 民記者活動を  
振り返って 島田 敏 記者



今年度、初めて市民記者の登録を受けての活動でした。市民記者として記事を書くだけでなく、みなさんの書いた記事を「こう校正したらどうか」など意見を交わす市民記者会議があり、一人でなく協力しながら一つの記事が出来上がっているのだなと感心しました。今回、「海老ヶ島城」の記事を書いて、地域の歴史や文化など、もう少し調べてみたいなと思いました。



引き出した一年間



市民の目線から、イベントや団体の活動などをお届けしてくれた市民記者。今年度の執筆を終えたみなさんに、活動の感想を伺いました。

**防** 災について見直しを 栗原 幸雄 記者



今年度はコロナの影響もあり、取材に参加することが少なく非常に残念でした。私は防災活動について取材しました。自治会の自主活動や筑西市の補助金申請方法をみなさんに少しでも理解していただけたと思います。災害はいつ起こるかわかりません。自治会単位でしかできない防災活動もあります。自治会や隣近所で最低限の準備や災害時の行動について今一度話し合ってみることも必要であると感じました。



**コ** ロナ禍の中でも明るい  
話題を 星野 道子 記者



新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でした。明るい話題を届けたいと思い、3年後に開校となる明野地区の小中一貫校「明野地区義務教育学校」を取材しました。地域の人たちの応援のもと、1つ1つの課題をじっくり検討しながら進められているとのこと。やがて、多くの友達と出会い、切磋琢磨しながら学ぶ子どもたちの、生き生きとした姿を思い描きました。



**市** 民の心が励みに 大泊 知子 記者



今年度は、最近ブームになっている御朱印について取材させていただきました。たくさんの人から「御朱印の見方がわかってよかった」、「意味がわかってありがたみが増しました」などの感想をいただき、記者として大変励みになりました。

コロナ終息を願い、これからも御朱印巡りを続けたいと思います。

今回は「こども食堂」についての情報をお伝えしたいと思っています。



**め** ざせ！ずーっと健康 舘野 敏子 記者



今年度は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が出され、先が見えない不安の中での始まりでした。「けんこうリンク」の取材も感染防止を徹底し最少人数で行いました。集団健診も延期が続き、受診されなかった人も多かったのではないのでしょうか。自分の体を知り、ウイルスに負けない心と体の健康を目指しましょう。まずは健診の予約を。

これからも読者の心がポツと温くなるような情報をお届けできるようにと思います。



## コ

國府田 和弘 記者  
コロナ禍で学んだこと



今年度は、若手事業者が一丸となりコロナ禍に立ち向かう姿を追い記事にしました。変化に対応しながら、新たにクラウドファンディングに挑戦をする姿を目の当たりにして、絶望の中でも仲間と希望を共有する事で力強く前に進む事が出来る事を学びました。

私は今回で市民記者を退任し、新たなステージへ挑戦していきたいと思います。



## 下

武田 勝義 記者  
館一高附属中学校



今年度は下館一高附属中学校取材しました。記事掲載から半年が経ち、新たに令和3年度新1年生が入学の試練を見事に乗り越えて、期待に膨らむ春を迎えていることと思います。今までより中学生の進路が多様化して、公立もいつしか特色を求められるのでしょうか。ここ数年で教育の環境はどう進展するか、興味が尽きません。



# 筑西市の魅力

## 恩

返しから生まれる  
奉仕活動 原 周二 記者



今年度の取材対象は、活動内容がよく知られていないライオンズクラブとし、手弁当の奉仕団体として献血、献眼などの活動を展開している旨を紹介しました。取材を通して、奉仕活動の源泉は、お世話になってきた社会に、少しでも恩返ししようとする心にあると感じられた次第です。

市民記者として3年が経過し、退任することといたします。あまりお役に立てなかったかもしれませんが、大変お世話になりました。



## 広

小島 正美 記者  
報紙を通して伝える



4月から記者の仲間入りをさせていただきました。毎月の会議に参加して改めてピープルの情報量の多さや記事がタイムリーな事に感心しました。市民記者のページ担当月では市独自の取組みである小中学生の書く男女共同参画を題材にした作文について書かせていただきました。多くの人に読んでいただくことでこの取組みについて理解が深まるきっかけとなれば嬉しいです。次回は食生活改善推進委員について取り上げたいと思います。



## 助

和田 恵子 記者  
助け合いながら生きていく



9月号に、下館ラーメンの記事を書かせていただきましたところ、みなさんにとっても喜んでいただくことができました。

今は外出や人々とのふれ合いも自粛して過ごしていますが、コロナのおかげで、人は助け合いながら生きていることを特に痛感しています。1日も早くコロナが終息してくれることを願いつつ、これからも新たな「まちの魅力」を発見し、たくさんの人に喜んでもらえる事柄をお伝えして行きます。

